

『第5回学生が選ぶインターンシップアワード』企業応募データ ①



企業・団体情報	
管理ID	200243
上場区分	上場（株式公開）
従業員数	1, 000人～3, 000人未満
メイン業種	銀行・証券

ISタイトル

あきぎん冬季インターンシップ＜地方創生コース＞

オリエンテーション 事前学習（実施項目）

業界・企業・仕事内容の説明 インターンシップの内容説明 インターンシップ参加目的の明確化 学生1人ひとりに対する目標設定

オリエンテーション 事前学習 内容詳細（自由記述）

・インターンシップの目的の共有、個人目標の設定

・アイスブレイク①：バースデーライン（コロナ対策のため無言で取り組める内容）

・アイスブレイク②：共通点探し自己紹介（①で判明した誕生日順にグループで自己紹介。聞く側は自分との共通点をカウントしてい

き、チームの総得点を発表。打ち解けられるだけでなく、戦略的な自己紹介を意識できる）

インターンシップ 実施項目

【疑似体験】課題に対するグループワーク（企画立案、課題解決、プレゼンなど） 【疑似体験】課題に対する個人ワーク 【交流】社員との座談会 【その他】人事や社員による講義・レクチャー

インターンシップ 内容詳細（自由記述）

◆2日間、対面にて当行本部の「地域価値共創部」の業務をグループワークを通して体感いただくコースです。秋田県の課題解決や、地域の発展のために当行が力を入れている業務を体験できます！

◆「地方創生」をテーマに秋田県の魅力や課題についての理解を深め、今後の秋田県の創生に向けた施策について各種ワークを通して考え、話し合い、発表していただくプログラムが中心となります。

【オリエンテーション】

○アイスブレイク・目標設定

○秋田銀行の概要および銀行業務紹介

【1日目プログラム】

○ビジネスマッチングによる海外販路拡大戦略について（ワーク）

・秋田県産品の海外展開を考える。

・秋田の食品を香港市場に輸出する。

○事業承継・M&Aの案件組成演習（ワーク）

・事業承継の相談を受けたら（ケーススタディ）

・M&Aのマッチングを創出する。

【2日目プログラム】

○起業・創業支援の疑似体験ワーク（ワーク）

・当行ビジネスコンテスト受賞者（法人企業）への支援策を検討する。（後日、社長へ支援策を実際に提出いたします）

○本部分行員との情報交換会（経営企画部、営業支援部、営業企画部、地域価値共創部から4名）

協力社員数

20人

協力社員の属性

課長（マネージャー） 主任（チームリーダー） 若手社員

具体的社員交流

・人事部および各プログラムの担当部署の行員複数名が学生をサポート。

・講義形式で業務や取り組みを紹介し、グループワークでは行員が各グループを回り交流。

・2日目の最後には本部の4部署から活躍する中堅行員を呼び、学生との座談会を通し実際の業務や働き方、プライベートなことまで情報交換を実施。

NO.

200243

インターンシップ情報					
開催月	2021年12月				
実施回数	1回	学生の受入日数	2日	総受入人数	30人
対象属性（文理）	特に対象とする学部はない			単位認定	いいえ
低学年参加	大学1・2年生の募集対象ではあったが特に積極的に募集は行っていない			産学連携	いいえ
他企業などとの連携か？	いいえ	報酬・支給	食事代の支給あり	実働時間と賃金	
実施形式	全て対面で実施				

フィードバック手法

グループに対する口頭でのフィードバック その他

フィードバック時間

10分未満

フィードバック頻度

(2日間以上のプログラムのみ) 期間中学生が参加した日は毎回行った

フィードバック内容詳細（自由記述）

人数が多く一人ひとりへのフィードバックは実施できないが、振り返りシートにより企業が重視する項目と、自身で掲げた個人目標への振り返りを行うことで、自己分析を進めるサポートを行い、全員が気づきを得られるように配慮した。

グループワークでは、各グループの発表への行員のコメントはもちろん、学生同士で意見を話す機会を作ることで、刺激や気づきを得られるように意識した。

フォローアップ 事後学習（実施項目）

学生自身によるインターンシップ経験の振り返り・学びの言語化

フォローアップ 事後学習（自由記述）

各プログラムごとのアンケートで随時学びを言語化することと、「振り返りシート」を活用し、企業が重視する項目（主体性など）と、自身で掲げた個人目標への振り返りを行い、自己分析を進められるようにした。

また、最後のプログラムにて行員との座談会を設けることで、インターンシップを通して感じた疑問を解消するだけでなく、今後社会に出るにあたっての不安や悩みをぶつけられる機会とし、企業研究・業界研究のみならず、自身の将来設計のお手伝いができるように意識した。

工夫ポイント（自由記述）

冒頭のオリエンテーションで銀行業務と当行が力を入れている取り組みについて紹介し、その取り組みに対しその後のプログラムで体験できる構成とすることで、地方銀行に対し深く理解できるように心掛けた。

各プログラムにおいて、「講義→グループワーク→発表→フィードバック」というひな形で実施することで、知識を定着させ、学生の成長の機会を多くとるように努めた。

教育的効果（自由記述）

2日間という短い期間ではあるが、単に「企業理解」に留めるのではなく、プログラムを通して何かを得られることを目的とし、知識だけでなくコミュニケーション力の向上や思考を深める方法習得など、一人ひとりが成長できることを重視した。

そのために、冒頭に個人目標を設定してもらい、目的意識を持つことで学びが得られる環境を整え、振り返りシートにより気づきを得られるように配慮した。

また、学生に向けて内容を簡易化するのではなく、銀行員の研修でも使えるような本格的な内容とすることで、リアルな銀行業務を体感できるようにあえて難しく作成した。

改善活動（自由記述）

学生からのアンケート内容から改善すべき部分とよかった部分を抽出し、次のプログラム作成に活用している。また、そのアンケートを担当部署全員で回覧し、各部署から意見や改善点を挙げてもらい、集約している。

また内容自体も、銀行の取り組みが日々変化していることを踏まえ、年度ごとに内容を変え、夏と冬でも内容を変化させている。そのとき一番力を入れている取り組みを最新の情報とともに提供することを心掛けている。